

The Report on Student Global Leadership Institute

伊藤禎子

2018年度 SGLI の引率（二週間のうち、後半の一週間）のため、プナホウスクール（ホノルル）を訪問した。次年度からもおそらく参加することになるだろうから、次に引率に行くことになる教員にとって参考になるべく記録をまとめておこうと思う。

I SGLI ～Social Conscience～

今年度のテーマは「Social Conscience（社会的良心）」であった。まずは、「社会的良心」というテーマの意味そのものが難解であるため、生徒たちとそのテーマの意味について考えを共有することから始めた（昨年度末終業式後に最初のミーティングを実施）。それ以外にも、SGLI 側から生徒への宿題がいくつか課されている。出発前のスケジュールは大体下記の通りである。

■出発前までにやったこと

1. Social Conscience とは何か（3月末～5月前半、計4回）
 - ※書籍や新聞記事などを参照にし持ち寄って意見交換。
2. ①テーマについて実践したいことの話し合い、プレゼン資料作成
 - ②学校紹介ビデオ作成（4月～5月末・中間試験前後）
 - ※学校紹介ビデオは、6月頭に SGLI へ提出。
3. 合同プレゼン（6月4日放課後実施）
 - ※合同プレゼンは、学習院高等科、女子部、ICU、慶応志木の四校で実施。今年度福井高校が初参加だった。次年度福井高校との合同プレゼンのやり方をどうするか課題である。プレゼンの内容について、今回高等科は「相対的貧困（relative poverty）」をテーマとし、学校教育外の教育を受けることを困難とする子どもたちへの支援を考えた。
4. 出発前保護者説明会（6月25日放課後実施）
 - ※今年度の保護者説明会では、生徒たちのプレゼン披露を取り入れた。SGLI へ子どもを参加させる親の不安を少しでも緩和するための試みとして成功したと思う。
5. 最終事前プレゼン・出発前最終確認（7月13日実施）
 - ※6月4日実施の合同プレゼンの反省点を踏まえ、事後実践まで考えながら、事前に来ることの最終発表をしてもらった。
6. 生徒出発（6月15日）

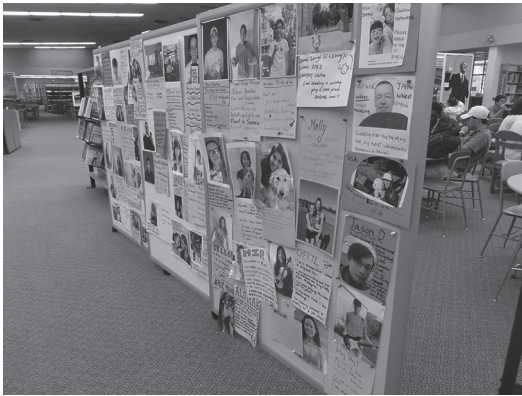
■現地でやったこと

Week 1～情報収集：各参加校混合のグループとなり、意見交換を行う。各種行事もあり、忙しい一週間となる。日曜日はOFF。（夜にレクチャーと学校別のミーティング）

Week 2～ファイナルプレゼンまで：学校別に活動する。メンター（アドバイザー）とのミーティングを経て、ファイナルプレゼンに向けて資料作りをする。

- ・タレントショー（月曜夜実施）
- ・ファイナルプレゼン（水曜／木曜午後実施）
- ・1分プレゼン（金曜午前実施）

※ SGLI の様子

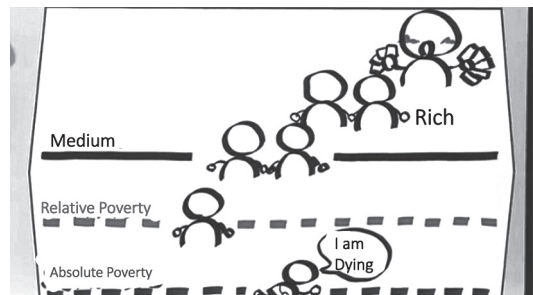


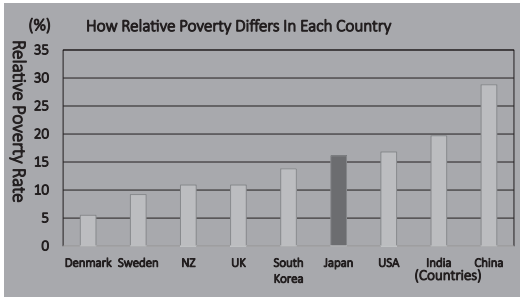
※ 2018 年度 SGLI ファイナルプレゼン資料（抜粋）



なぜこの子は泣いているのか？
→髪の毛もきれいで、靴も履き、洋服も着ている。

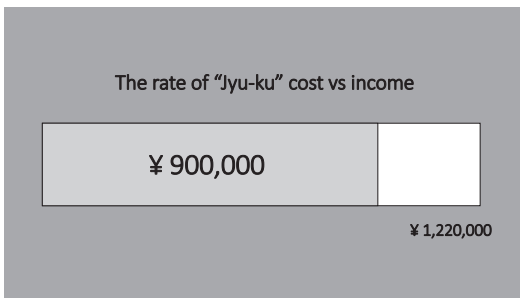
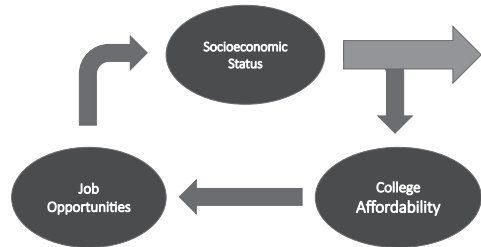
「相対的貧困」(relative poverty) とは何か？
→所得の中央値 (245 万円) の
半分を下回っている人 (122.5 万円以下)





「相対的貧困」の実態比率

悪循環から抜け出すために、
→教育を提供したい。



塾に通わせる費用 →非常に高額である。
→相対的貧困層との格差の問題が浮上する。

僕たちがやりたいこと
→学習環境を提供する仕組みを作ること。



Month	Task
September	finish forming the way to educate
October	ascertain the facility to teach
November	start recruiting members meet the professor for cooperation
January	finish recruiting members (around 10) start announcing for elementary school students
February	complete all of the system start the program

タイムライン

※今年度の生徒による1分プレゼン原稿

Maybe you cannot believe it but in Japan, one in seven children live under half the median income. Students in such condition tend to lack in educational opportunities and have a disadvantage in passing entrance exams. So, our project is to make a community that provides an educational opportunity to help children get out of the poverty cycle. Education is very important in Japan because academic backgrounds affect one's future career. We will recruit high school students and college volunteers as tutors for elementary students so that they can go to the school they want to go.

(1)ファイナルプレゼンは、

- ①(テーマについて)考えられる課題は何か
- ②解決された姿はどのようなものか
- ③解決に向けて何が出来るか
- ④どのように実践するか(タイムライン)

という内容になっている。事後実践を経ての最終的なゴールは、本来は次年度の6月であるが、日本の学校では難しいため、例年1月頃に最終プレゼンを日本の学校を集めて実施しており、基本的にそこで活動が終了している(今年度は福井高校も参加する(2019年1月26日予定))。

(2)プレゼン中は準正装で臨み、他校の生徒や教員から質問があり、それに答えるという形で緊張感のあるものである。SGLIの二週間の中での総まとめの時間となるため、二週目の夜は毎日準備のために生徒たちはミーティングルームで遅くまで活動している。体調を崩しやすくなるため、引率教員は生徒の体調管理を気にかける必要がある。

■帰国後(今後の予定)

- ・フィードバック
- ・事後実践
- ・文化祭での活動
- ・最終合同プレゼン(2019年1月26日実施予定)

■来年度の課題

今回初めてSGLIの引率を申し出たが、とほいうものの、何をどうしてよいのか不明なことが多く、不安もあった。そのとき、以前の高等科紀要にまとめられていたSGLIの総括を拝読することができ、それによってほんやりとイメージをつかむことができた。今回、私がこの文章をまとめようと思ったのも、次に引率する教員にとって、少しでもその不安が解消できればと願うためである。

今回引率をするにあたり、事前の準備から生徒たちの活動を見てきた。事後実践と最終

成果発表については今後実施する予定であり、それも見ていくことになる。SGLIの企画は、夏休みに二週間集まって英語で話し合いをすることが目的ではなく、事前に考えてきた案を二週間で練り直し、終わったあとに実際に行動に移し、どのような成果を得られたのか、その後どのように改善できるのかという一年間のプログラムを意図している。現地で話し合いをするため、英語力が必要になることはもちろんであるが、とはいえ、英語力がすべてではなく、大事なものは各自が持っている「気づきの能力」と「行動力」である。英語がいくら出来ていても、社会にどのような問題があるのかに気づけない場合や、その問題の解決のためにアクションを起こせないようでは意味がない。(この点において、引率教員は英語教員でなければならない理由は無いらしい。むしろ、様々な教科の教員による、多様な視点が生徒のサポートになり得る。)二週間のプログラムの中にはタレントショーというものがあるが、これはステージに立って何か自分が得意とする能力(talent)を見せる(show)ことである。人前に立って堂々と行動できる人、自分の持っている能力で人を魅了できる人、そういう一面もこのプログラムの中で発揮できることが求められている。

Global Programとして、生徒たちがファイナルプレゼンをして自分たちの問題発見・解決へのプロセスを述べるが、大体の内容は、自国に潜む問題点を紹介している。国際的だからといって国際的な話をする必要はなく、むしろ自国のことをよく知ること、知ろうとすること、より本質をつかもうとすること、現在見えていない現象を洗い出すこと、これらの能力が問われている。生徒たちには、背伸びしようとせず、身の回りの現象に疑問を持つこと、現状は当たり前なことではないこと、多角的な視野を持って物事を判断することを、普段の生活を通して身につけてほしい。大学の一步手前の教育機関にいる者として、生徒たちに目指してもらいたい資質である。そして、そのような力が身につくような材料や舞台を一教員として提供しよう心がけたい。

II The teacher's strand

SGLIの二週目には、引率教員(無料)と別途申込者(有料)に向けた三日間の教員研修の企画がある(SGLIの引率教員は、二週目の三日間、生徒と別行動をして教員研修に参加することが半ば義務づけられている。)今年も、ICU高校の英語教員(Roderick Davisさん)がファシリテーターを務めた。

三日間の内容は以下のとおりである。(1)グローバル教育に必要なものは何か、(2)教員に必要な資質は何か、(3)プレゼン各種、と多様なスケジュールが組まれており、あっという間の三日間であった。

2016年度末に訪問したSt. Paul's Schoolの授業で、「Why are we here?」という言葉が壁に貼ってあったのがとても印象的だったのだが、それをこの場の何かの資料の中でも目にした。また、引率教員という役目を超えて、積極的にディスカッションをする教員たちが多かった。なかでも驚いたのは、人が発言をしている途中で、「次にそれを受けて意見を



述べたいのは私である」と主張するように、何人もの教員が手を高く挙げていたことである。それだけ「自分の意見」というものを大事にしており、他人の意見に耳を傾けながら、それを鵜呑みにはせず、自分の立場を述べる、そのような行動が当たり前にならなれているのだということが印象深かった。

さて、プレゼンテーションは何種類か設定されていた。一つは、プナホウスクールの物理の教員による試みと施設の紹介であった。物理を科目としてのみ学ぶのではなく、ウクレレを制作しながら、心地よい音を奏でる要素を物理の内容で把握するというものであった。ハワイの文化に貢献しながら、物理の内容を体得できる試みが魅力的であった。

カメハメハ高校の教員は、TED Edを使った試みであった。生徒が主体的に学び、発信し、共有し、また学び合うという環境作りの紹介であり、これも興味深いものであった。



その他、三つのセッションに分かれて、時間内に二つのプレゼンを見ることができるといふ時間が設けられていた。その中の一つを私も任され、プレゼンターとして授業紹介を行った(20分×2回)。与えられたプレゼンのテーマが「トラディショナルとモダン」であったため、古文の授業方法の古典的なやり方と、新しい方法に変えた際の効果を報告した。(内容としては、『高等科紀要』第15号、『日本文学』2018年5月号と重なる。)実

際に発表で用いた資料を最後に添付する。



言葉を学ぶ授業では、スパルタのような時間で暗記させられる授業時間も必要不可欠でありながら、それだけでは楽しく学ぶという時間にならないという葛藤がどの国の教員にも共有されているのがわかった。生徒主体の授業と講義の効果をバランス良く用いるという案を述べるのが本プレゼンの目的であった。が、今後どのような生徒に会うことになり、どのような授業方法をとることになるのか、一進一退、紆余曲折を経ることになり、SGLIの中の教員研修として、各国の教員の実践例を学び、困難を共有し合うことは、一教員としてとても意義深いものであると感じた。貴重な機会を与えてくれた Roderick Davis さんに心から感謝したい。

■ プレゼン読み原稿・PPT資料（抜粋）

The teacher's strand

Traditional & Modern way of education; Japanese classical literature lessons

Teiko Ito

Gakushuin Boys High School, Tokyo

■ introduction

Hi, my name is Teiko Ito. I'm from Gakushuin Boys High School in Japan. Today, I'm going to talk about this; Traditional & Modern way of education, particularly, Japanese classical literature lessons. But, of course you don't need a prior knowledge of Japanese classical literature to understand this presentation, don't worry.

I have been teaching Japanese classical literature for more than 10 years. Classical and modern literature are in Japanese, but grammar and vocabulary have been changed a lot, so we can read some sentences but can't read them without studying. Especially, studying grammar and vocabulary is very important for readers.

By the way, have you studied classical literature in your school days? Such as Shakespeare or something? Did you need to study grammar or vocabulary a lot? In Japan, remembering grammar and vocabulary is very hard work for students.

In Japanese classical literature lessons, teaching grammar, vocabulary and how to translate has been the main task.

But, I'm not satisfied with this. The top problem is students' low engagement. First of all, why do we read literature? – because it's interesting, enjoyable and has very deep, mysterious worlds, etc. However, in this current education, it's difficult for students to know how interesting classical literature is.

introduction

Japanese classical literature lessons

- Grammar
- Vocabulary
- How to translate

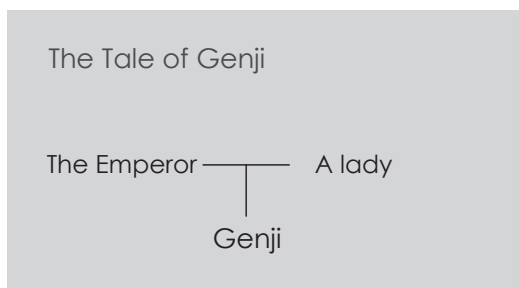
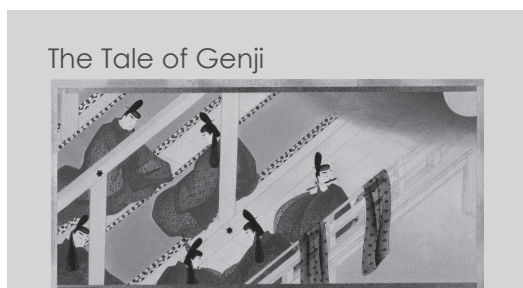
→ Low engagement

I've been thinking about a new style of teaching Japanese classical literature, and then I visited a high school in Baltimore, St. Paul's School, which is here today as you know. After observing some literature lessons, I got some ideas, possibilities, and the courage to step forward on to a new road. I'll talk about this later.

■ Part1: Traditional way

1-1: Grammar

Low Engagement



Now, I'll show you the beginning scene of *The Tale of Genji*, this was written around 1000A.D, by a woman, and now this is the greatest masterpiece in Japan. The main character is GENJI and the story starts from Genji's parents.

In Japanese classical literature lessons, first, teachers explain roughly about what this book is, who Genji is, and then after that, move on to grammar, structure and how to translate, and finally the lesson finishes.

いづれの御時にか、
 女御・更衣あまたさぶらひたまひける中に、
 いとむごとなき際にはあらぬが、
 いと時めきたまふありけり。

This is the first sentence in *The Tale of Genji*. Now, let's try to read this sentence.

いづれの / 御時 / に / か / ; which/ era/ is/ it?/

女御・更衣 ; NYOGO (= higher rank than KOI) & KOI

あまた ; a lot of

さぶらひ ; are working for/be with (the Emperor)

たまひ ; = respectful form (for NYOGO & KOI)

ける ; = past tense

中に ; in ~

いと ; very

やむごとなき ; high-class

際 ; rank

～にはあらぬが ; is not so much

いと ; very

時めき ; (the Emperor) loves (her)

たまふ ; = respectful form (for the Emperor)

あり ; (she) is (= exist)

けり ; = past tense

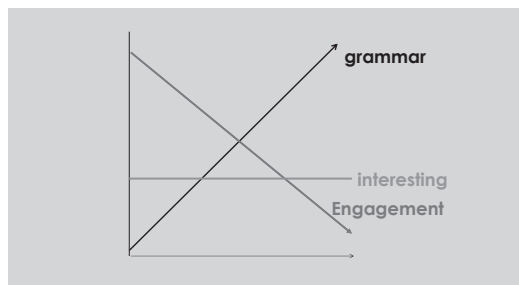
You can understand this is really tough work. Many teachers do this in every lesson, and this is the traditional way.

Then, let's confirm the content with a translation by Royall Tyler.

In a certain reign (whose can it have been?) someone of no very great rank, among all His Majesty's Consorts and Intimates, enjoyed exceptional favor.

Students have to study not only vocabulary but grammar in order to read sentences by themselves to enter the university. The first graders (at high school) are OK because the amount of knowledge is not so much, but second graders come to dislike classical literature, because learning classical literature implies remembering grammar and studying how to translate.

Look at this.



As grade level increases, the amount of grammar students have to learn goes up, and then students'

engagement becomes lower and lower. Then, it will be difficult for students to find how interesting the story is.

For a long time, my top priority is to cut the time of teaching grammar and make time in order to find the interest in the story.

1-2: Observations at St. Paul's school

How to → High student Engagement

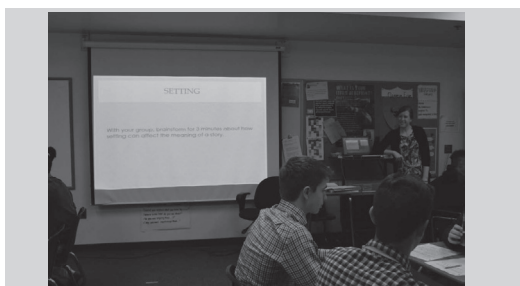
Teacher support → success / problems ?

Last year I visited St.Paul's School and observed some literature lessons, one was modern literature and the other was classical literature.

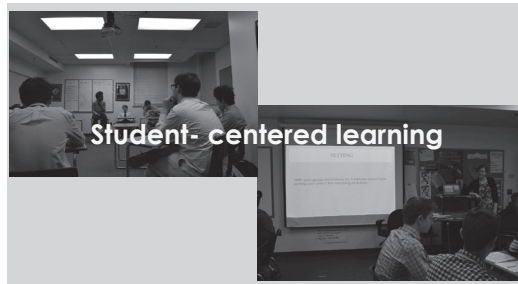
In the modern one, the teacher was at the center of the students and gave some points and advice, and students sat in a circle and had discussions in their group. Having discussions, they gave their ideas and opinions to everyone.



And in the classical one, a teacher gave each group one book, and let students read by themselves. To help them, the teacher gave their own role and distributed a piece of paper which had some points to read. Students had a dictionary and had a discussion and wrote down notes on their sheet and submitted it when the lesson finished. During the lesson, the teacher stood behind students and said nothing without being questioned by students.



I'd like to emphasize that both of these lessons were made by students. Especially in classical lessons, the teacher didn't give an excessive demand, and only students could participate. That made me surprised because Japanese style loads too much tasks on students.



■ Part 2: Modern way

After coming back to Japan, I started a new way of teaching to the second graders (at high school). They've already learned basic grammar in the first grade. I chose one book and gave one page to one group. I assigned some tasks; 1: explaining the grammar of the page to everyone, and 2: preparing the presentation about their interests in their page. To help them, I gave a translation in advance. Actually, giving a translation to students in advance is surprising for teachers in Japan because they often say doing so does not help students, studying classical literature is studying how to translate. So, it's said that giving a translation to students in advance is a terribly bad thing. However, as I said, we don't have enough time to get to know the story itself, so I did it to let students know how interesting the story is.



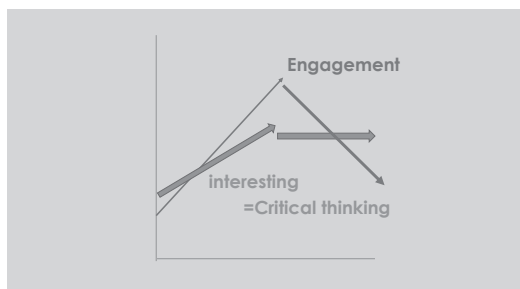
This picture depicts the group work that students did together to study grammar. They opened a grammar textbook of their own motion. Their attitude was very active, like I've never seen before.

This picture below is a typical style of lessons in Japan. Generally, Japanese classical lessons at high school are like this.

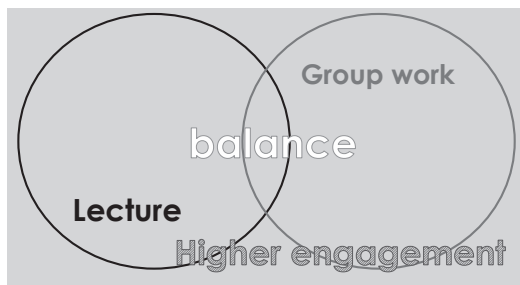


Thanks to observations and learning a new method, I could change my lesson style drastically and overcome student's low engagement.

However, one problem is left. The first, students got interested in the scene and had fun during their own presentation, but gradually the quality of their presentation had not risen up. Students got used to doing their tasks very quickly that they were unable to remain interested in their presentations. At the same time, some of their engagement got lower.



That means the deep critical thinking that was done during group work was not enough. So, I made time to lecture and gave some hints to read deeply. I noticed that the balance between lecture and group work is necessary to build up students' higher engagement.



Now, let's return to that scene of *The Tale of Genji*. To read it critically, I'll give you some hints; Who does not exist in his court?

However, you might not understand just from reading this translation. So, hint number 2; Check the rank of the empress. → 皇太后・皇后・中宮・女御・更衣

When Chugu's son is going to be the next emperor, her "Chugu rank" is changed into "Kogo", and "Kotaigo". So these are the same person and now you will understand that Chugu is the best position as a wife of the Emperor.

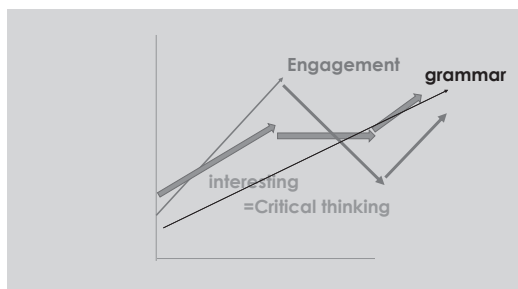
Now, do you notice that Chugu was not here.

いづれの御時にか、
女御・更衣あまたさぶらひたまひける中に、
 いとやむごとなき際にはあらぬが、
 いと時めきたまふありけり。

This scene means that; there were a lot of Nyogo & Koi but there wasn't Chugu. Then the Emperor had to choose only one wife as the top empress from those wives, but he hadn't done so yet, and he had to do it quickly to make his court well-balanced. However, he didn't. What's more, he fell in love especially with a not-so high-class-lady. And she gave birth to a boy, Genji. From now on, where will this story go? There is a big political problem in this first sentence.

Like this, unless we understand the problem, we won't find the interest in the story.

Most of students don't know the existence of Chugu without being taught. So, teachers have to give some advice for students to find new perspectives.



After this kind of lecture, students' interest & engagement are rising up again. In addition, they're building up their grammar skill, too, because students are interested in the story and they're more willing to accept studying grammar than before.

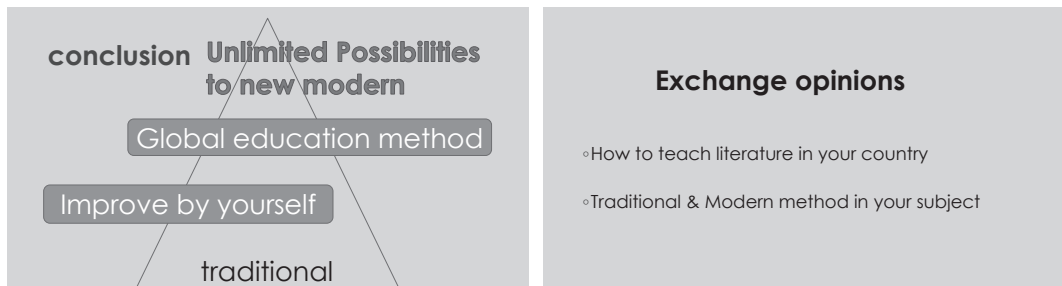
■ Conclusion: Message?

- Global experience
- Traditional → Modern
- Change/transformation

Thanks to St. Paul's lessons, I could follow a new road, and today I'd like to tell you that the education method of other countries can sometimes help you.

Sometimes we can improve ourselves in our country to some extent, but sometimes knowing global education methods will help us a lot.

After this presentation, I'd like to talk about your country's method in any subject, both traditional and modern. That will lead us to unlimited possibilities in the new modern world.



I believe that will open our eyes to the new world!

Thank you very much.